

残菊物語 (1956)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 Color

時間 112分

初公開日 1956/04/23

【解説】

村松梢風が二代目・尾上菊之助の人生を描いた同名小説を、依田義賢が脚色し島耕二が監督した。1939年に溝口健二が監督した作品の再映画化。溝口版はモノクロだったが、本作は大映カラー総天然色で製作された。

五代目菊五郎の後継者と目される尾上菊之助は、自分の人気に思い上がっていた。周囲で彼に注意できるのは、乳母のお徳だけだった。菊之助とお徳は恋に落ちるが、厳格な菊五郎夫妻はお徳を解雇。菊之助はお徳を追って家を出てしまう。家を勘当された菊之助は名を変えて芸道に励むが評判は悪く、地方廻りの小劇団に身を置くことに。しかし長い旅の疲れからお徳が胸を病んでしまう。菊之助の芸道は徐々に軌道に乗るが、お徳の病状はますます悪化していた。

【クレジット】

監督 島耕二
製作 永田雅一 [製作]
企画 辻久一
原作 村松梢風
脚本 依田義賢
撮影 長井信一
美術監督 伊藤憲朔
美術 西岡善信
音楽 大森盛太郎
出演 長谷川一夫
淡島千景
阿井美千子
三田登喜子
中村玉緒
吉川満子
浪花千栄子
黒川弥太郎
見明凡太郎
伊沢一郎
市川小太夫
市川寿美蔵
嵐三右衛門
沢村訥子